



河川敷で参加者全員で記念写真

河川敷に笑顔が咲く

■敬老会

敬老会が9月17日、細江地内の坂口谷川河川敷で開かれました。

この会は、同区の堀の内町内会に住む桑田雅史さんが主催したもの。桑田さんは、地元の美しい景観を後世に残すために、「坂口谷川を守る会」を立ち上げ、ボランティアで河川の堤防の草刈りや色とりどりの彼岸花の植栽をしています。

敬老会には、同町内会の高齢者など約60人が参加。みんなで昼食を食べた後、坂口谷川を見ながら、歌や健康体操などで交流を行いました。

街中に江戸商船が出帆

■県指定無形民俗文化財「飯佐和乃神社御船神事」

飯佐和乃神社御船神事は9月16日、波津地区で営まれました。

この神事は、江戸時代の相良湊の回船業者が海上安全や商売繁盛を祈願したのが起源とされており、県の無形民俗文化財に指定されています。

浴衣姿の「船若」と呼ばれる青年が練り歌に合わせて、2メートルほどもある菱垣回船と樽回船の模型船「御船」を荒々しく担ぎながら、威勢のよい掛け声とともに同地区を力強く練り歩きました。



4人1組で御船を担ぎ、まちを疾走する船若

迅速な復旧作業のために

■災害時の業務委託に関する協定締結式

市は9月25日、市役所棟原庁舎で一般社団法人静岡県測量設計業協会と「災害または事故における測量設計等業務委託に関する協定」、静岡県地質調査業協会と「災害時における地質調査等業務委託に関する協定」を締結しました。

この協定により、有事の際は道路や河川などの公共施設の機能確保や回復を行うために、土地の測量や調査などについて、それぞれの協会と契約し事務手続きの簡素化を図り、迅速な復旧作業に当たることができます。



市と協定を結んだ測量設計業協会(左)と地質調査業協会(右)



避難経路を歩きながら確認をする参加者(地頭方地区)

まちを歩いて計画に反映

■地区津波防災まちづくり計画 第2回男女協働サロン「まち歩き」

津波や地震に備えるために、市民と協働で策定する「地区津波防災まちづくり計画」の「まち歩き」が9月22日、市内の沿岸部5地区(相良・片浜・地頭方・川崎・細江地区)で実施されました。

市民や関係者など計画策定に携わる人たちを中心に約250人が参加。参加者は夜間に避難する場合など、さまざまな状況を想定し実際にまちを歩きながら、避難経路や避難する場合の問題点などを確認しました。今後課題を整理して、計画に盛り込んでいきます。



コンサートで美しいハーモニーを奏でる菅山小の児童

ふるさとの情景を歌詞で表現

■「桑原京子・桑原啓郎と一緒にのコンサート」ゲスト出演/菅山小

菅山小の5年生児童25人は、9月17日、静岡音楽館AOIホール(静岡市)で開かれたコンサートに、特別ゲストとして出演しました。

オペラ歌手である桑原氏が子どもたちのために、児童が作詞した歌詞にプロが作った曲を付けてコンサートで披露し、その収益金で学校にピアノを寄贈しています。

今年は菅山小が選ばれ、ずっと歌い継がれるようにと児童らが思いを込めて作詞した「かがやけ菅山」が初披露されました。会場に集まった観客は、児童らの気持ちがこもった歌詞と美しい歌声にじっと聴き入りました。

今月19日には、菅山小でピアノの贈呈が行われ、児童らと氏が一緒に歌う予定です。

袋いっぱい秋の味覚を拾う

■クリ拾い/菅山保育園

菅山保育園の5歳児15人は9月13日、相良油田観光くり園でクリ拾いを行いました。

これは、15日の開園に先立ち、地元の園児らに楽しんでもらうために実施されたもの。園児らは、熟れて地面に落ちた光沢のある大粒の実を見つけると、歓声を上げて、イガを足で踏みつけたり、火挟みを使ったりして器用に取り出し、次々と袋の中に拾い集めました。

その後、収穫したクリを蒸して食べ、秋の味覚を存分に満喫しました。



クリ拾いを楽しむ園児



鎌で稲を刈り取る児童

実りの秋を収穫

■稲刈り/地頭方小

地頭方小学校の5年生46人は9月10日、同校近くの学校田で、地元のボランティア団体「末広会」の会員13人の指導のもと、稲刈りを行いました。

稲作体験学習「田んぼの学校」の一環で、児童らは、塩水で良質な種もみを選ぶ4月の「塩水選」から約4カ月半にわたり丹精込めて育てた、黄金色の稲穂を収穫。鎌を使っての稲刈りに苦戦しながらも、自分で収穫する喜びに満足していました。

13日には脱穀が行われ、収穫した米はもちつき、稲わらは正月飾り作成に使用する予定です。



広報担当がどこにも取材に行きます。あなたの身近なホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎(23)0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp